

古都 ぶら

天然砥石 2.5億年前から

丸尾山かいわい (亀岡)

ちよつと珍しい合所グッズを取
材するだけのはずが、2億5千万
年前の世界にたどりついていた。
京都府と京都市の境、こま
で古いものがあつたとは……。

(原田通矢)

採掘加工業 一人伝統守る

亀岡市の北西部に、地固
では見つかからない通称「丸
尾山」がある。1月中旬、
私は、その内部に遡られた
採掘場に行った。

山の中腹から鉄道を10分
ほど上がり、洞窟のような
入り口から坑道を通んだ先
にある。暗めの照明に助け



地層の違いを見極め、ハンマーで
たたいて採掘する土橋さん(亀岡市)



形を整えて完成した天然砥石

砥取家(0771・26・2545)は、千代
川駅から京都府交通バス「大内」で下車、徒歩
3分。車なら京都府道千代川インターチェンジ
から15分。森のステーションかめおかは同バス
「亀岡市交差点駅前」で下車、徒歩5分。1階の
天然砥石館(050・3700・1014、入館
無料)と2階のレストラン忘れな(0771・56
・8807)は、日曜・水曜が休み。

▽ ▲ ▽

亀岡を含む一帯は丹波山
地と呼ばれる。その正体
は、まだ地球に超大陸パン
ゲアがあった三疊紀、つま
り約2億5千万年前から、
パンゲアの崩れにあってパ
ンサラッサ海の一部(今の
太平洋)の海底にプランク
トンなどが積もってできた
地層。そこからは「珪藻
岩」と呼ばれる岩石が採れ
る。粘土質で水晶体も含まれ
るため、水になじみやすく
研削能力が高い。まさに砥
石にうってつけ。だから龜
岡には、いい砥石ばかりで



砥取家の天然砥石で和
包丁を研ぐ下鴨橋助の
安食さん(左京区)

地とつながっている。砥石は40カ国の
料理人が愛用する。もちろ
ん国内でも。料理「下鴨橋
助」(左京区)の料理人、
安食助彦さん(50)は使用歴
20年以上。主に包丁研ぎの
仕上げ用に使っている。
「これを使うと包丁の表面
に薄層がつかかる。この見
えが目が好き。切れ味もよ
くて長く使えます」
ただ、いい砥石ばかりでも
ないようだ。

「亀岡市史」によると、
天然砥石の採掘は亀岡で本
格化したのは明治期。18
73(明治6)年の地租改
正で土地の私的所有権が確
められたため、砥取家もそ
の頃に創業した。
だが戦後、砂を固めて作
る安食な「人造砥石」が家
庭で普及するようになり、高度
経済成長期に入ると大工用
の砥石も電機化したため、
天然砥石のニーズはさらに
落ち込んだ。
亀岡にあった砥石採掘場
も昭和30年以降に閉鎖が相
次いだ。丸尾山からの採掘
道にも、かつてあった砥石
店の看板がさびて残ってい
るのを見かけた。
「戦後の最盛期は、農業
との兼業で約300人が採
掘業として働いていたそう
です。もう私にはない。
伝統を守りたい」
土橋さんはそう話す。

採掘場に行かなくても、
天然砥石のことを気軽に学
べる場所もあった。
2016年に市が開いた
博物館「歴史ミュージアム 天然
砥石館」。車で砥取家から
は10分ほど、亀岡市中部か
らなら30分ほどの、市の交
流会館「森のステーション
かめおか」にある。
展示されている砥石は、
地元・砥取家からの貸出品
のほか、愛媛県や岐阜県な
ど産の砥石や、世界有数の
産地ベルギーのものまで
多数。上野大成館長(80)の
コレクションもある。
砥石の価値は、形の美し
さや色、模様の鮮やかさ、
人気産地かどうかで決まる
といい、展示品には数百万
円相当のものまであった。
上野さんは「見るだけで
なく、体験もできることが
当館の強み。天然砥石にか
けては世界でダントツの博
物館です」と胸を張る。
訪れた日には、ペーパー
クラフト用のナイフを作る
体験イベントが開かれてい
た。府内から訪れた親子が
参加。研ぐほどに刃の切れ
味が増すさまに、子どもは
「これどうすればいいの」
とおひきつづき砥石に刃を
当て、その面白さを感じ取
っているようだった。
交流館の2階にはレスト
ラン「おうち楽園」忘れ
な」があった。運営するの
はNPO法人チヨロギ村の
森隆治さん(70)と妻香さん
(67)夫婦。それぞれ旅館
と養老院の知識や経験を生
かし、地元産の食材を使っ
た薬膳料理を提供してい
る。「砥石で有名な亀岡だ
が、旅館もあることを知っ
てもらいたい」と森隆治さ
ん。高麗人参や昆布でつく
る薬膳鍋がメインの「季節
の薬膳鍋」(1500
円)を注文し、温まった。
帰宅後、包丁を研いでみ
ようと思いついた。部屋の
あちこちに「発掘」を試み
たが、2年前に買ったはず
の砥石は見つからず。天然
ものを買わなきゃ、ちよつ
と考えている。